

第1回 飼料流通の合理化に関する検討会議事概要

1. 日 時 令和2年6月12日（金）15:00～17:00

2. 開催方法 Web開催

3. 議事概要

1) トラック運送業の現状と課題について（説明者 国土交通省自動車局貨物課）

2) 飼料流通における課題について（説明者 農林水産省生産局畜産部飼料課）

3) 主な意見は以下のとおり

① リードタイムについて

- 直前のオーダーは、飼料工場での製造効率の悪化や原料及び飼料製品の輸送の非効率化につながるため、苦慮しているが、家畜の生死にも関わるため対応せざるをえない。原因は確認ミス等の単純なものがほとんどであり、3日前オーダーをお願いしているが、浸透していない。
- 本来は自農場の飼料使用量はきちんと生産者が把握すべきであり、経営の基本なのだという指導をしても良いのではないか。

② 配送システム、配送方式、タンク等の技術的改善方策について

- 高所作業も課題であると感じており、センサーなどを利用してタンクに登らず残量が確認できる仕組みや、下からタンクを開閉出来る装置など技術的なサポートが必要。また、過去にそのような技術を試したことがあったが、結露等によるタンク内の飼料の塊を確認するために、結局タンクの上に登らなければならなかった。
- 複数の農家にセンサーをつけたとしても、そのデータの管理をすることが大変。今後、この技術を浸透させるには、管理の簡素化、かつ複数年メンテナンスを不要としないなければならない。また、センサーで把握した残量を受発注の伝票や請求書と連携することで事務の効率化につながるのではないか。
- 飼料の安全性・誤投入防止の観点から、タンクの農場内位置情報を活用し、工場から農場まで商品をトレースすることで、効率的な配送が可能ではないか。トラックの運転手に、携帯電話などを貸与してGPSを把握し、工場が運転手の場所を把握することで、工場側の計画的な製造等が可能になるのではないか。
- 農場内はトラックの走行に危険な場所も多いため、タンクを農場の衛生管理区域外に置くなどの改善はできないか。

③ 共同輸送について

- 物流面での課題は、畜種でかなりの差がある。特に紙袋や粗飼料の輸送のある牛は特有の課題が多い。
- ストックポイントの共同利用や共同輸送が必要。また、長距離輸送はドライバーの拘束時間の問題があるため、中継地点を設け、トラックとドライバーが交代できるシステム、トレーラーの共有使用化の検討が必要である。
- 共同物流については、荷主間や物流事業者間など同業種間のヨコの連携を通して積載率や倉庫稼働率の向上を図るとともに、発荷主-物流事業者-着荷主といったタテの連携によりサプライチェーン全体で物流の効率化を進めていくことが重要である。